

第34期
事業報告並びに決算報告書

(2023年度)

自 2023年4月1日
至 2024年3月31日

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団

【1】第34期（2023年4月～2024年3月度）事業報告

1 概要

当財団は、ヘルスリサーチの振興を目的として、ヘルスリサーチ研究者への助成事業を中心とした活動を行っている。

第34期（2023年度）の事業計画・収支予算は、2023年3月13日に開催された「第42回理事会」の承認を得て実施された。事業計画は、以下のとおりであった。

- (1) 第32回（2023年度）ヘルスリサーチ研究助成事業
- (2) 第30回（2023年度）ヘルスリサーチフォーラム及び2023年度研究助成贈呈式並びにヘルスリサーチフォーラム30周年記念シンポジウムの開催
- (3) ヘルスリサーチワークショップの見直し
- (4) 広報ツールの見直しと新たな広報活動の実施

上記のうち、(1)及び(2)については、予定通り実施することができた。一方、(3)及び(4)については、期初に予定していた事務局体制の補強が実現できず、前期の実施計画の遅れの影響に抛り、計画変更をせざるを得なかったが、来期に引き継いで継続実施することとなった。

また、第34期（2023年度）の事業実施に伴う収支（正味財産増減）決算の概要は、次のとおりであった。

経常収益は9,584万円であった。内訳は、基本財産からの運用収益5,898万円、出捐企業からの指定寄附金総額4,000万円のうち経常収益への振替額3,150万円などであった。「事業費」に関しては最重点事業である研究助成事業費は、5,462万円（うち支払助成金5,178万円）であった。その他、ヘルスリサーチフォーラム関連費3,005万円（うち、会場費560万円、機材費533万円、運営人件費919万円）、ホームページ関連費71万円等となり、「事業費合計」は、総額9,568万円となった。管理費は、総額1,202万円となり、第34期の事業費と管理費の合計である「経常費用計」は、10,770万円であった。

指定正味財産期末残高は、22億8,371万円で、一般正味財産期末残高については5億7,109万円となり、正味財産期末残高の総額は、28億5,480万円となった。

期末基本財産は、普通預金5億2,616万円、定期預金1億2,784万円、有価証券19億9,603万円で、合計26億5,004万円となった。

2 活動内容

(1) 第32回（2023年度）ヘルスリサーチ研究助成事業

国際共同研究は、1件当たり300万円以内（8件程度）、国内共同研究（年齢制限なし）は、1件当たり130万円以内（14件程度）、国内共同研究（満39歳以下）は、1件当たり100万円以内（14件程度）と、前年度と同規模の助成計画にて実施した。

新型コロナウイルス感染症の収束傾向に加え医療関係者からの応募が増加したこと、財団役員に関連学会への広報活動協力が抛り、対前年比で37.5%増の111件の応募があった。

選考の結果、国際共同研究8件、国内共同研究（年齢制限なし）16件、国内共同研究（満39歳以下）16件、合計40件（対前年比48%増）が採択された。各カテゴリーの全助成案件については別添資料のとおりである。

<応募状況並びに採択結果>

() : 前年度、金額 : 万円

	応募件数	採択件数	助成金額
国際共同研究	26 (22)	8 (8)	2,111 (1,096)
国内共同研究 (年齢制限なし)	54 (42)	16 (17)	1,676 (1,887)
国内共同研究 (満 39 歳以下)	<u>31 (17)</u>	<u>16 (6)</u>	<u>1,391 (521)</u>
合計	<u>111 (81)</u>	<u>40 (27)</u>	<u>5,178 (3,504)</u>

<公募状況>

2023年4月3日 ~ 6月30日 公募期間

- ◆ 財団ホームページにて公募案内を掲載するとともに、リーフレットを全国の大学各学部（医学部、薬学部、歯学部、保健学部、社会福祉学部、看護学部、経済学部、法学部等）及び学会、研究機関、報道機関、厚生労働省、過年度の助成者、財団役員等、約8,000件送付。また、一部学会の機関誌等に公募案内広告を掲載
- ◆ 医療経済研究機構機関誌にて公募案内広告を無料掲載（4月号～6月号）

<選考日程>

2023年 7月24日	選考委員長による予備選考
8月 4日 ~ 9月10日	選考委員 書面審査
9月11日	選考委員 選考結果回答期限
10月 5日	第83回選考委員会 - 書類選考による助成案件の決定
10月26日	選考委員長より理事長への助成案件の選考・決定の答申
10月27日	理事長が全理事に対して選考結果を通知 (定款第46条報告の省略)
10月28日	応募者本人への結果通知(書面)
12月 9日	第32回 (2023年度) 研究助成贈呈式開催
12月18日~	助成金振込み

(2) 第 30 回 (2023 年度) ヘルスリサーチフォーラム及び 2023 年度研究助成贈呈式並びにヘルスリサーチ 30 周年記念シンポジウムの開催

本年度は、「少子化社会を乗り越えるヘルスリサーチ」をテーマとし、旧主務官庁である厚生労働省の後援を得るとともに、一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構の協賛を得て、2 日間の日程で開催した。今期は、すべてのプログラムで、2019 年度以来となる来場形式で開催した。

研究助成贈呈式では、2023 年度受賞者 40 名中、代理出席を含む 38 名が来場し、来場者には、中村理事長より、贈呈状が授与された。記念撮影のあと、各受賞者からは助成対象となった研究内容のショートプレゼンテーションが行われ、山崎選考委員長より 3 つの 카테고리ごとに

助成研究に関する講評が行われた。

今年は、ヘルスリサーチフォーラム 30 周年の記念行事として、記念シンポジウムを企画した。「少子化社会を乗り越えるヘルスリサーチ」をテーマとし、学際的な外部有識者による基調講演と中村理事長の司会・進行によるパネルディスカッションを行い、ヘルスリサーチの重要性について振興を図った。

今年のヘルスリサーチフォーラムでは、2021 年度に助成した国際共同研究及び国内共同研究 29 演題のうち、20 演題と研究を継続実施されていた 2019～2020 年度の助成研究 7 演題の他、本年度の一般演題公募から選考を経て採択された 3 演題の合計 30 演題の研究発表が行われた。

1 日目のセッション終了後には、2019 年度以来の開催となる「情報交換会」を開催し、ヘルスリサーチを通じた受賞者と発表者、また来場者との貴重なコミュニケーションの場となった。

<開催概要>

日 時： ≪1日目≫ 2023年12月 9日（土） 9時15分 ～ 17時15分

≪2日目≫ 2023年12月10日（日） 9時00分 ～ 17時15分

会 場： 紀尾井カンファレンス メインルーム（東京都千代田区紀尾井町）

オンライン： MS Teams Meeting（発表者、視聴者）*Live配信のみ。

テ - マ： 「少子化社会を乗り越えるヘルスリサーチ」

後 援： 厚生労働省

協 賛： 一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構

参 加 者： 研究成果発表者、研究助成受賞者、ヘルスリサーチ研究者、関係官庁、一般参加者、出捐会社役員、財団役員等、約80名。

プログラム：

≪1日目≫

1. 開会挨拶 : 中村 安秀 ファイザーヘルスリサーチ振興財団 理事長
2. 来賓挨拶 : 伯野 春彦 氏（厚生労働省大臣官房 厚生科学課長）*オンライン
新垣 真理 氏（一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会
医療経済研究機構 研究主幹）
原田 明久 氏（ファイザー株式会社 代表取締役社長） 3.

第32回(2023年度)研究助成選考経過・結果発表：

山崎 力 ファイザーヘルスリサーチ振興財団 財団選考委員長、理事

4. 第32回(2023年度)研究助成贈呈式 : 中村 安秀 理事長
5. 第32回(2023年度)受賞研究発表 : 山崎 力 選考委員長（講評）

≪国際共同研究≫

- ① 睡眠時無呼吸症候群の生活習慣病発症への寄与危険度と費用効果に関する国際共同疫学研究*オンライン発表

- ② 認知症高齢者とその家族介護者がQOLを保ちながら在宅での生活を継続できる要因の探索 * 代理発表
 - ③ 重症心疾患・心臓移植患者への高度看護実践の評価法開発
 - ④ Global Burden of Disease study (GBD) 解析に基づく感染症疾病負荷の国際比較
 - ⑤ 日本とフランスのユースクリニックに関するアンメットニーズの比較～日本におけるユースクリニック法整備に向けて～
 - ⑥ メンデルランダム化を用いた食習慣と慢性腎臓病発症との因果推論に関する国際共同研究
 - ⑦ 日本、韓国、台湾における高齢者のスピリチュアルヘルスの比較研究 * 代理発表
 - ⑧ 全国市民調査に基づく診断エラーの実態、関連要因、及び医学的・医療経済的損失の解明と診断エラー対策の立案
- 以上8題

≪ 国内共同研究-年齢制限なし ≫

- ① 言語学習モデルによる入院リハビリテーションでの実績指数予測モデル開発
 - ② 機械学習法を用いた脊髄損傷後の歩行予後予測
 - ③ 地方における小児摂食障害診療の課題と改善
 - ④ 神奈川県みらい未病コホート研究を活用した生活習慣と認知機能に関する観察研究
 - ⑤ がん薬物療法の有害事象の早期発見を目指したモバイルヘルスケアプログラムの構築
 - ⑥ 晩婚化・少子化対策としての若年女性・男性の妊孕性に対する意識変容関連因子の解析
 - ⑦ 認知症患者にやさしい街づくりのためのデザインの研究
 - ⑧ 乳幼児患者における有害事象を、包括的に把握するための保護者・介護者観察ツールの開発
 - ⑨ 人工知能技術応用による災害後の循環器疾患予測モデルの開発
 - ⑩ 炎症性腸疾患患者のsexual well-being支援のための医療者教育プログラムと情報資源の開発
 - ⑪ 日本における心不全患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの実態調査
 - ⑫ 高齢者を支援する先端技術とその法的・倫理的課題の検討 * 代理発表
 - ⑬ 医療現場におけるメンタルヘルス支援とハラスメントの再発防止
 - ⑭ DPC、レセプトデータを用いた抜管後肺炎のリスク要因の検討
 - ⑮ 声の韻律変化と時空間歩行因子を併用した運動器慢性疼痛の客観的評価指標
 - ⑯ COVID-19流行下および流行後に日本在住外国人の精神健康状態に直面・遠隔の社会的支援が果たす役割
- 以上16題

≪ 国内共同研究-満39歳以下 ≫

- ① ウェアラブルデバイスを活用した医療の質と費用対効果を向上するオンラインシステムの開発

- ② ウェアラブルデバイスを使って生体デジタル情報で潰瘍性大腸炎の新しいバイオマーカーを確立する
 - ③ 子どもを突然死で亡くした親が抱く悲嘆ケアに対するアンメットニーズの探索的質的研究
 - ④ インターネット上の麻薬および大麻情報の検索行動解析と信頼性評価
 - ⑤ 高品質な医療実践を加速する国内医学共同研究における障壁の可視化
 - ⑥ パーソンセンタードケアを促進するための、一般急性期病院看護師を対象とした認知症職場研修プログラムの開発および効果検証
 - ⑦ 災害時トリアージに対する専門家-市民間の理解の乖離についての分析
 - ⑧ 日本国内の薬局サービス向上に資するPX (患者経験価値) 尺度の開発と評価
 - ⑨ 終末期がん医療における感染症診療の現状に応じた抗菌薬適正使用支援
 - ⑩ 孤独・社会的孤立が高齢者の予防医療・健康関連QOLに及ぼす影響の検討
 - ⑪ 医師の曖昧さ耐性とその関連要因の解明
 - ⑫ 医療経済尺度を内包した頭痛日記型個人健康記録の開発
 - ⑬ 統合失調症スペクトラム障害患者の周術期精神症状悪化予測スコアリングモデルの作成と検証
 - ⑭ 外国人技能実習生のメンタルヘルスと就労環境に関する基礎調査
 - ⑮ 社会経済的地位が低い高齢者の地域イベント参加を促す情報伝達方策の検討
- 以上15題（欠席により未発表1題）

6. ヘルスリサーチフォーラム30周年記念シンポジウム『少子化社会を乗り越えるヘルスリサーチ』

- ① パネリスト：
 - ◇ 島崎 謙治 氏
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 教授
 - ◇ 上野 千鶴子 氏
認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク 理事長、東京大学 名誉教授
 - ◇ 海野 信也 氏
北里大学 名誉教授、JCHO相模野病院 周産期母子医療センター 顧問
 - ◇ 坂元 晴香 氏
東京女子医科大学衛生学公衆衛生学講座グローバルヘルス部門 准教授
- ② 基調講演
 - 1. 島崎 謙治 氏 『日本の少子化の現状と課題』
 - 2. 上野 千鶴子 氏 『日本の少子化はなぜ止まらないか』
- ③ パネルディスカッション
 - 1. 海野 信也 氏 『Sexual Health and Reproductive Rightsとヘルスリサーチ』
 - 2. 坂元 晴香 氏 『データから読み解く日本の少子化の要因』
- ④ 司会・進行： 中村理事長

7. 第30回（2023年度）ヘルスリサーチフォーラム

【セッション1】

座長： 矢作 恒雄 財団選考委員

≪2021年度助成研究 3題≫

- ① 休職・離職の予防に向けた企業内ストレスによる精神障害の早期検出基準の確立
- ② 国際版ひきこもり家族支援プログラムの開発
- ③ プロセスマッピングを用いた臨床現場におけるノンテクニカルスキル可視化の研究

≪2020年度助成研究 1題≫

- ④ 唾液中ストレスバイオマーカーによる発達障害児の不登校・ひきこもりへの発展の予測因子の解明

8. 情報交換会

≪2日目≫

9. 第30回（2023年度）ヘルスリサーチフォーラム

【セッション2】

座長： 甲斐 克則 財団選考委員、評議員

≪2021年度助成研究 2題≫

- ① 大学生のCOVID-19ワクチン接種行動に関するメディア行動と社会的要因の日印米国際調査
- ② 新型コロナ感染下における子どもの権利擁護 - 海外諸国との比較検討 -

≪2020年度助成研究 1題≫

- ③ アジア人の口腔内の歯科用金属組成に基づく個人識別スクリーニングに向けた比較検証

≪2023年度一般演題 1題≫

- ④ 公正な医療アクセスを目指すクラウドソーシングの開発と普及

【セッション3】

座長： 大木 幸子 財団選考委員

≪2021年度助成研究 2題≫

- ① 精神医療における未治療期間の要因：日韓二国間・比較混合研究
- ② 死を取り戻す- 学際的チームによるデス・エデュケーションの効果に関するパイロット・スタディ

≪2023年度一般演題 2題≫

- ③ 多世代交流の促進がソーシャルキャピタルに及ぼす影響：2年間の地域介入研究
- ④ 少子化対策としての社会保険医療の課題

【セッション4】

座長： 長谷川 剛 財団理事

≪2021年度助成研究 3題≫

- ① 多発性骨髄腫を例とした、高齢者への高度医療の費用対効果分析：大規模レセプトデータを用いて
- ② ビッグデータを用いた経時的連続家庭血圧測定による疾患発症予測とイベント発生リスクスコアの構築
- ③ 新型コロナウイルス感染症パンデミックの手術生産性変化に与える影響

【セッション5】 座長： 坂巻 弘之 財団選考委員、理事

≪2021年度助成研究 4題≫

- ① 小児科領域の抗菌薬適正使用を目的とした保護者向け啓発動画の作成と効果の検討
- ② 妊娠中の漢方薬使用に関するエビデンスの創出－使用状況調査と安全性評価－
- ③ COVID-19感染及び重症化に関する学際的要因の解明：日本-ベトナムの比較調査研究
- ④ 免疫チェックポイント阻害薬による治療を受ける肝がん患者の免疫関連有害事象早期発見システムの試作

【セッション6】 座長： 梶井 英治 財団選考委員

≪2021年度助成研究 2題≫

- ① 多疾患併存状態（マルチモビディティ）の診療におけるプライマリ・ケアの役割
- ② IT で結ぶ関節リウマチ（RA）リアルワールドデータベースMiRAi

≪2020年度助成研究 1題≫

- ③ プライマリ・ケア医の日米国際比較～超高齢社会の地域包括ケアに携わる医師の育成～

【セッション7】 座長： 平野 かよ子 財団選考委員、評議員

≪2021年度助成研究 3題≫

- ① 高齢心不全患者のオーラルフレイル予防のための看護師教育ツールの開発
- ② 認知症の行動・心理症状とケア施策に関する日米共同研究
- ③ コロナ禍における、発達障がい児のためのオンライン教育システムの構築

【セッション8】 座長： 川越 厚 財団選考委員

≪2021年度助成研究 3題≫

- ① 女性がん患者に提供される集学的治療に係る医療の質を保証する要素とその構築
- ② 希少がん患者のゲノム医療時代のアンメットニーズに関する調査
- ③ 総合診療医・老年内科医によるMultimorbidityの高齢者診療の実態調査

≪2019年度助成研究 1題≫

- ④ 日本とブラジルにおけるアルツハイマー病のBPSD 国際比較

以上

なお、本フォーラム講演録は、発表者の校閲を経て2024年8月頃発行予定である。

(3) ヘルスリサーチワークショップの見直し

本計画については、過去 30 年間の財団活動の実績を可視化するとともに、現状分析を行い新たな財団活動の指針とすべく計画した「財団活動の実績と課題の把握」が現在も継続実施中であることから、着手を見合わせざるを得ない状況となった。将来的な財団活動の方向性を見極めるためにも、現状の事業活動の課題を振り返り、その結果を踏まえた上で、事業の見直しを行うことが望ましく、30 周年事業の一環として計画した「財団活動の実績と課題の把握」を優先的に実施するよう計画変更を行った。

(4) 広報ツールの見直しと新たな広報活動の実施

上記(3)と同様の事由により、本計画の見直しをせざるを得なくなった。また、財団設立30周年事業の一環として計画していた「30周年記念誌」の刊行が遅れているため、記念誌の刊行を優先的に実施したところである。2024年度の事業計画では、本計画を引き続き盛り込んでいる。

(5) 寄附金募集活動

出捐企業であるファイザー株式会社からの指定寄附金4,000万円及び個人から11万円の寄附金があった。

3 運営に関する事項

(1) 評議員・理事・監事・選考委員及びその他委員に関する事項(2024年3月31日現在)

< 評議員 >

<u>役職</u>	<u>氏名</u>	<u>所属</u>
評議員	姉川 知史	名古屋商科大学 教授／慶應義塾大学 名誉教授
評議員	梅田 一郎	一般社団法人新時代戦略研究所 理事長
評議員	甲斐 克則	早稲田大学大学院法務研究科 教授
評議員	河北 博文	社会医療法人河北医療財団 理事長
評議員	黒川 達夫	一般社団法人日本バイオシミラー協議会 理事長
評議員	島内 憲夫	順天堂大学 名誉教授／広島国際大学 客員教授
評議員	西村 周三	京都先端科学大学 経済経営学部経済学科 教授
評議員	平井 愛山	千葉県循環器病センター臨床研修アドバイザー／ 日本慢性疾患重症化予防学会 代表理事
評議員	平野 かよ子	宮崎県立看護大学 名誉教授

以上9名。

< 理事・監事 >

<u>役職</u>	<u>氏名</u>	<u>所属</u>
理事長	中村 安秀	公益社団法人日本WHO協会 理事長
常務理事	鈴木 修	税理士／高崎商科大学商学部・大学院商学研究科 教授／ 公益財団法人公益法人協会 専門委員・主任研究員
理事	安達 一彦	元一般財団法人救急振興財団 専務理事
理事	井伊 雅子	一橋大学国際・公共政策大学院 教授
理事	小松 浩子	日本赤十字九州国際看護大学 学長

理事	坂巻 弘之	神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科 教授
理事	長谷川 剛	医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院 特任副院長
理事	福原 俊一	京都大学医学研究科 特任教授／福島県立医科大学 副学長／ Johns Hopkins 大学 Bloomberg School of Public Health 客員教授
理事	丸木 一成	国際医療福祉大学大学院 教授
理事	山崎 力	国際医療福祉大学 副大学院長／未来研究支援センター長
監事	宇都宮 啓	公益財団法人日本建築衛生管理教育センター 理事長／ 慶應義塾大学 客員教授
監事	山田 章雄	山田章雄公認会計士事務所／公認会計士

以上、理事 10 名、監事 2 名。

<選考委員>

<u>役 職</u>	<u>氏 名</u>	<u>所 属</u>
委員長	山崎 力	国際医療福祉大学 副大学院長／未来研究支援センター長
委員	姉川 知史	名古屋商科大学 教授／慶應義塾大学 名誉教授
委員	大木 幸子	杏林大学保健学部看護学科 教授
委員	甲斐 克則	早稲田大学大学院法務研究科 教授
委員	梶井 英治	茨城県西部メディカルセンター 病院長
委員	川越 厚	在宅ホスピス研究所パリアン 代表／森の診療所 医師
委員	坂巻 弘之	神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科 教授
委員	伯野 春彦	厚生労働省大臣官房厚生科学課 課長
委員	平野 かよ子	宮崎県立看護大学 名誉教授
委員	矢作 恒雄	慶應義塾大学 名誉教授

以上、10 名。

<ヘルスリサーチワークショップ幹事・世話人>

<u>役 職</u>	<u>氏 名</u>	<u>所 属</u>
代表幹事	山崎 元靖	神奈川県健康医療局 医務担当部長
幹事	永森 志織	NPO 法人難病支援ネット・ジャパン 理事
幹事	山岡 淳	大阪成蹊大学経営学部 准教授
世話人	池田 誠	SMP Laboratories Japan Co., Ltd. Vice President
世話人	中山 俊	アンター株式会社 代表取締役／東京医科歯科大学 客員准教授

世話人	花木 奈央	大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学 特任助教
世話人	金城 謙太郎	帝京大学大学院公衆衛生学研究科 特任教授／ 金城医院 院長
世話人	小島 健一	鳥飼総合法律事務所 パートナー弁護士
世話人	小林 美穂子	東邦大学看護学部 助教

以上 9 名。

(2) 評議員会・理事会・監査会・選考委員会に関する事項

[1] 評議員会

第 16 回 2023 年 6 月 16 日（金）15 時 00 分～16 時 00 分
 ハイブリッド会議（中継会場：ファイザー株式会社 18 階『18N02』会議室）
 第 1 号議案 第 33 期（2022 年度）決算書類承認の件
 報告事項 （1）第 33 期（2022 年度）事業報告
 （2）新選考委員選任の件
 第 1 号議案について、原案のとおり承認可決された。

[2] 理事会

- ① 第 43 回 2023 年 5 月 29 日（月）15 時 30 分～17 時 00 分
 ハイブリッド会議（中継会場：ファイザー株式会社 18 階『18N03』会議室）
 第 1 号議案 第 33 期（2022 年度）事業報告の件
 第 2 号議案 第 33 期（2022 年度）財務諸表の件
 第 3 号議案 定時評議員会の開催日時、場所、目的である事項等の件
 報告事項 （1）理事長職務執行
 （2）常務理事職務執行
 以上 3 案が、原案のとおり承認可決された。
- ② 第 44 回 2024 年 3 月 27 日（水）15 時 00 分～16 時 30 分
 ハイブリッド会議（中継会場：京王プラザホテル 南館 4 階『なつめ』会議室）
 第 1 号議案 第 35 期（2024 年度）事業計画の件
 第 2 号議案 第 35 期（2024 年度）収支予算、資金調達及び設備投資の見込みの件、
 並びに特定費用準備資金の取崩しの件
 第 3 号議案 役員賠償責任保険継続の件
 報告事項 （1）理事長職務執行
 （2）常務理事職務執行
 （3）理事改選の件
 以上 3 案が、原案のとおり承認可決された。

[3] 監査会

第 33 期監事監査 2023 年 5 月 9 日（水）10 時 00 分～12 時 00 分

会場：ファイザー株式会社 18 階『18E03』会議室)

- (1) 事務局から「第 33 期事業報告並びに決算報告書（案）」を説明
- (2) 監事からの質疑と理事長、常務理事、事務局長による応答
- (3) 監事からの指摘事項の修正

以上 3 項目が実施され、後日、監事による監査報告書への捺印が行われた。

[4] 選考委員会

① 第 83 回 2023 年 10 月 5 日（木）14 時 00 分～17 時 00 分

ハイブリッド会議（中継会場：京王プラザホテル本館 43 階『コメット』会議室）

第 1 号議案 第 32 回（2023 年度）研究助成案件の選考に関する件

第 2 号議案 第 30 回（2023 年度）一般演題 応募者選考に関する件

第 3 号議案 第 30 回（2023 年度）ヘルスリサーチフォーラム・プログラムに関する件

その他報告等

事前の書面審査に基づき、本選考が行われ、本年度の研究助成候補案件並びに一般演題採択案件が決定された。また、第 30 回（2023 年度）ヘルスリサーチフォーラムのプログラム概要が決議された。

② 第 84 回 2024 年 2 月 19 日（月）10 時 00 分～12 時 00 分

ハイブリッド会議（中継会場：ファイザー株式会社 18 階『18N03』会議室）

第 1 号議案 第 33 回（2024 年度）研究助成公募内容・選考方法等の件

第 2 号議案 第 31 回（2024 年度）ヘルスリサーチフォーラムの件

第 1 号議案では、来期（2024 年度）のヘルスリサーチ研究助成の概要並びに選考方法が検討・決議された。第 2 号議案では、2024 年度ヘルスリサーチフォーラムの概要が決議され、本年度テーマとして、「AI の活用とヘルスリサーチ」が決議された。

(3) オフィスに関する事項（2024 年 3 月 31 日現在）

ファイザー株式会社本社ビル（渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル）21 階にて、36 平方メートルを賃借している。必要経費以外は全額ファイザー株式会社が負担している。

(4) 登記・届出に関する事項

[1] 2023年6月30日に、第33期（2022年4月～2023年3月度）事業報告・貸借対照表・正味財産増減計算書・財産目録等を内閣府(内閣総理大臣)にオンラインにて提出した。

[2] 2023年8月に、日本年金機構より厚生年金保険・健康保険加入についての通知があり、代表理事につき新規適用届を2023年12月20日に行い、12月より保険料の支払いを開始した。

[3] 第30回（2023年度）ヘルスリサーチフォーラム開催に際し、2023年11月17日に厚生労働省後援の名義使用を申請し、2023年11月27日に許可を得た。

[4] 2024年3月31日に、第35期（2024年度）事業計画、収支予算書を内閣府（内閣総理大臣）にオンラインにて提出した。

4 附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、附属明細書は作成しない。

以上